

令和2年度 第1回花巻市介護保険運営協議会 会議録

1 開催日時 令和2年10月1日（木）午後1時～2時33分

2 開催場所 花巻市文化会館 1階 第1・2会議室

3 出席者

(1) 委員 17名

橋本純子委員、菊池清委員、朝倉千里委員、狩野隆史委員、佐々木一広委員、内舘憲二委員、伊藤芳江委員、藤本莞爾委員、小田島克久委員、荒谷政博委員、高橋岳志委員、上川亜矢委員、畑村浩一委員、小木田勇輝委員、畠山良彦委員、影山一男委員、千葉正明委員

(2) 欠席した委員 1名

大原初美委員

(3) 花巻中央地域包括支援センター所長 伊藤文子

(4) 事務局 9名

健康福祉部長 高橋靖、長寿福祉課長 佐藤拓史、健康づくり課長 阿部勇悦、長寿福祉課課長補佐（高齢福祉・包括支援担当） 久保田和子、同課課長補佐（介護給付・介護認定担当） 佐藤ひとみ、同課高齢福祉係長 丹野久弥、同課包括支援係長 鎌田晶子、同介護給付係長 伊藤浩之、同課介護認定係長 有戸裕美子

(5) 傍聴者

なし

(6) 報道関係

1名

4 協議事項

- (1) 第7期介護保険事業計画の実施状況について
- (2) 地域支援事業の実施状況について
- (3) 第7期介護保険事業計画評価指標に対する自己評価
- (4) 保険者機能強化推進交付金について
- (5) 介護保険条例の改正について
- (6) 地域密着型事業所の整備状況
- (7) 第8期介護保険事業計画の策定について

5 会議内容

＜新委員の紹介＞（佐藤課長補佐）

開会に先立ち、新委員を御紹介させていただく。鎌田智恵子委員にかわり公益社団法人岩手県看護協会花巻支部長に就任された、畑村浩一様である。

（1）開 会 進 行：佐藤課長補佐

これより、令和2年度第1回花巻市介護保険運営協議会を開会する。

（2）挨 拶

○高橋健康福祉部長挨拶

委員各位におかれては、本日は御多忙の中お集まりいただき、感謝申し上げます。そしてまた、先ほど御紹介をさせていただいた、畑村浩一委員にはよろしくお願い申し上げます。

さて、この後の協議の中でも、御報告するところであるが、当市の高齢化率は、本年3月末時点で34.1%と、毎年上昇している。ただその中で、要介護認定率については、ここ2年ほど逆に減少に転じている。この原因、理由については、様々あるかと思うが一つについては、地域支援事業での介護予防の効果といったようなこともあるのかと推察をしている。

本日は、地域支援事業も含む第7期の介護保険事業計画の中間年度であった、令和元年度の実施状況について、御報告させていただき、進行管理の部分で御意見をいただきたいと考えている。

そしてまた、令和3年度からは、新たに第8期の介護保険事業計画の計画年度になるが、現在、その策定に向けて様々準備を進めているところである。現時点で国が示す、計画策定への指針の御報告、それから、現在の第7期の振り返り、あるいは課題の整理、そしてまた、第8期策定スケジュールについて、御説明をさせていただきたい。その上でどのような取組が必要かというようなことの御意見もいただき、そうした御意見をもとに、計画の骨子の検討、あるいは素案の作成に入りたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

○会長挨拶（影山会長）

花巻市の介護保険事業もこれからますます厳しい状況になるかと思うが、運営に関して、委員の皆様から広く意見や提言を求めるとというのがこの会議の設置目的である。

今日は7つの協議事項があるが、忌憚のない御意見をいただきたい。

＜出席状況の報告＞（佐藤課長補佐）

協議に入る前に本日の会議の出席状況を報告する。委員18名中、出席者数17名であり、過半数以上の出席をいただいているため、花巻市介護保険運営協議会規則第5条第2項の規定により会議が成立することを報告させていただく。

なお本会議は花巻市審議会の会議の公開に関する指針により公開する会議となる。会議の傍聴を希望する方がいる場合は、これを認めること、また、会議資料及び会議録を市のホームページで公開することを申し添える。

それでは、協議に移らせていただく。会議の議長は規則第4条第2項の規定により会長となっているため、影山会長、よろしくお願い申し上げます。

（3）協 議（影山会長）

①第7期介護保険事業計画の実施状況について

第7期介護保険事業計画の実施状況について、佐藤課長より説明。

〈質問等なし〉

②地域支援事業の実施状況について

地域支援事業の実施状況について、佐藤課長より説明。

〈質疑応答〉

（高橋委員）

2点、確認させていただきたい。まず1点が9ページの2の（1）介護予防生活支援サービス事業についての説明で、サービスAとサービスBがあるようだが、花巻市ご近所サポーター事業について委託事業と、自主事業に分かれていると認識しているが、内容の違いを教えてください。

それからもう1点、10ページの3、在宅医療上も連携推進事業の中の在宅生活を支える多職種が集う会についてだが、実施回数3回、参加者数266人ということで、単純にこれを計算すると1回につき90人ぐらい参加ということになる。非常に多くの方が参加されていると思う反面、「顔の見える関係の構築」とのことだが、1回90人集まったところでどのような工夫をして、顔の見える関係づくりに取り組まれたのかということ、以上2点教えてください。

（久保田補佐）

1点目の質問について、サービスAの中で委託事業としているものは、ご近所サポーター事業といい、ごみ出しや買物などの身体に触れない家事の援助について、市のほうで事業立てをしたパッケージで、地域団体に引受けてもらっているものである。自主事業については、市のパッケージ事業であるご近所サポーター事業に取り組んでいる団体が、それぞれの地域の要望に応じたサービスを自分たちで実施する自主活動に対して補助金を出しているということになる。

2点目の在宅生活を支える多職種が集う会、在宅医療介護連携推進事業についての集う会については、平成27年から続けているもので、医療介護、福祉の関係者の方が集まり、在宅医療介護連携を進めるために、弊害となるような課題について、自分の職種はこういうことができるということを紹介し合う中で、お互いにその役割を理解し、このように連携すればよいということの一つ一つ話し合いを重ねる中で、顔が見える関係づくりだけではなく、連携も向上したということがある。

（小田島委員）

地域支援事業についてご説明いただいたが、前年度との比較がないのでよくわからないのだが、この地域支援事業全体として、前年度との比較をどのように分析しているか。

（佐藤課長）

地域支援事業のうち総合事業については、各地域でボランティアが活動していただける地区が、最初は6団体だったものが、現在9団体まで増えている。松園町一区や星が丘など、活動団体がだんだん増えていると認識している。

今後も、地道に地域に入っていく、説明を繰り返し、そのような活動をしていただける地域を増やしていきたいと考えている。

（狩野委員）

10ページの5認知症サポーターの養成であるが、たくさんの方々が講座やセミナーを受講しているようだが、実際に、サポーターの方が、このような活動をしているとか、このような相

談を受けたという事例はあるか。

（久保田補佐）

今回の資料には載せていないが、花巻市全体で1万人以上の方に認知症サポーター養成講座を受講していただいている。サポーター養成講座は、これまでの、「認知症はなりたくない」とか「自分の近くにいないほうがよい」という誤解を払拭して、認知症を正しく理解する人の数を増やすことを目的に実施している。これまで、サポーターが、直接相談を受けて対応するということは、なかったかと思うが、今後は、サポーター養成講座受講者が、認知症の方が生活していく上で、本当の意味でサポーターになる方策を考えていかなければいけないと考えており、今後の課題と認識している。

（畠山委員）

前回、3月26日に開かれた協議会では、5ページにわたって予算も含めた支援事業の実施状況と、12月末現在の数字などがあったが、今回は2ページ、項目が随分減っている。また、介護予防・生活支援サービス事業の現行相当サービス（訪問型・通所型）は、12月現在で1,139人だったが、今回の資料では1,071人になっている。

項目をしっかりと同じにしていただかないと、比較が出来ないし、現状把握が出来ない。できれば今後は、項目出しは統一していただきたい。

（菊池委員）

高齢者が増えた割には、介護認定が減っているという説明で、その要因は、地域支援事業の効果があらわれたのではないかというお話だったが、具体的にどのように分析しているか。

（久保田課長補佐）

地域支援事業については、介護予防の取組ということで、第7期計画では、地域の自主的な介護予防活動として通いの場の拡大を進めてきた。その活動を通じて、デイサービスなどの介護サービスを使わなくても、高齢者が自由に参加して、地域の人と交流が出来たり、介護予防の活動が出来たという効果も大きいと思っている。

もう一つは、総合事業対象者という枠が新たに出来たことにより、介護認定を受けなくても、基本チェックリストのチェック項目で、生活機能が低下していることが認められれば、通所型サービスや訪問型サービスを使えるようになった。初回相談の段階で、聞き取りを行い、要介護認定を受けなくても、必要なサービスを受けられてる方が増えたという要素もあると分析している。

（影山会長）

先ほどからの委員からの質疑を受けてであるが、生活支援ボランティアや認知症サポーターの増加について、説明はあったが、資料には、実績値が記載されていないし、過去の比較ができる数字も記載されていない。

要介護認定者数の減少の要因の一つとして、注目される地域支援事業であるので、経年変化も含めて、資料の作成をしていただきたい。

③第7期介護保険事業計画評価指標に対する自己評価

第7期介護保険事業計画評価指標に対する自己評価について佐藤課長より説明

〈質疑応答〉

（高橋委員）

15ページのところで、社会福祉士会としては、ここにある地域ネットワーク会議や地域ケア推進会議は、コミュニティソーシャルワークという視点において非常に大事なものだと思っている。今回の評価では、地域ケア推進会議のほうは、ゼロ回で達成できなかったということであり、地域ネットワーク会議は、実績が4回と記載されているが、今後、こういったところにも力を入れて、開催していただければと思っている。

（千葉委員）

地域ケア推進会議の達成状況について、全く達成出来なかったとのことだが、なぜ達成出来なかったのか、何回の会議をしたのか、その辺を簡単に教えていただきたい。

（久保田補佐）

地域ケア推進会議については、市全体として一つ会議を開くということを目指していた。市全体の会議に至るため、各地域で実施している地域ケア個別会議で個別の事例を検討し、その課題を積み上げる中で、地域に共通する地域課題を整理し、その中からさらに市全体として取組が必要なものは、その方策を市全体の視点で考えるという流れを目指していた。今の花巻市の現状は、個別会議はたくさん開催し、課題の蓄積はあるが、次の段階で、課題のうちどれが地域で対応出来るもので、どれが地域で対応出来ないのかの整理がされていない。これは、個別会議の整理の手法が確立されていないことが要因であり、それをまず確立し、個別課題から地域課題、そこから市全体の課題として検討できるように、今後もすすめていきたいと考えている。

（橋本委員）

認知症サポーター養成講座であるが、さきほども取上げられて、私も同じように思っていたのだが、平成30年度は114回開催しているが、令和元年度は47回しか開催されていない。認知症の問題は、年々大きくなっているので、重点を置いてもう少し取り組んでいただきたい。

もう一つ、ご近所サポーター事業だが、回数が示されているが、団体数が増えていないということは、回数も増えないと思うので、もう少し、何かよいアイデアを出しながら、団体数を増やしていただきたい。

（久保田補佐）

1点目のサポーター養成講座の回数についてであるが、平成30年度から令和2年度までの第7期計画では、サポーター養成講座は、通いの場を中心として開催するという計画にしていたが、通いの場についての開催は終了してしまったということもあり、回数が伸びなかったという現実がある。今後は、通いの場だけでなく、それ以外のところの、例えば職域を対象に、理解を深めるという意味でサポーター養成講座を開催していく方策を考えていきたい。

もう1点のご近所サポーター事業については、取組団体数が少なければこちらの回数は伸びていけないということは、事実である。取組団体が増えるように今取り組んでいるが、これまでは、振興センター単位の大きい単位で立ち上げを進めていたが、今年度になってからは、行政区の小さい単位で取組を検討し、すぐ実行するところも出てきている。各地域の方が取組やすい方法や、方策を市も一緒に考えながら、団体数を増やしていきたいと考えている。

（菊池委員）

先ほど、ケア推進会議や、ネットワーク会議の回数に、触れられていたが、その中で、昨年もちが、出来なかった理由が、今回のようなことだったように記憶している。計画を立てる上で、個別、地域、市全体というようにあるのであれば、全体を見ないと困るのではないかと私は考える。回数がすべてではないが、行ったほうがよいのではないかという意見である。

(久保田補佐)

貴重な意見をいただいたと思う。先ほどの回答でも申し上げたが、個別会議のほうからの積み上げで推進会議を開くということを目指していたが、それだけでは難しいということもわかったので、個別会議によらないところでの、地域の課題等市で把握している状況を提示しながら、市全体としての推進会議の開催を目指していきたい。

(影山会長)

私も、個別会議、地域ネットワーク会議、こちらのほうはそれなりにうまく進んでいるが、最後の、市全域が、2年間にわたって、達成出来なかったというところが気になっている。この会議を開くのは大事だと思うが、それぞれ個別、自立型、地域ネットワークに参加されている方々が、情報を共有することは多分出来ていると思うので、リモート会議とか、資料を配布する会議など、顔を突き合わせて行う会議とは違う情報の共有の仕方を考えれば達成できるのではないかな。ぜひ、市全体の課題を解決するために、会議以外でも多分共有できる方法があると思うのでそういったところを、今後検討していただきたい。

④保険者機能強化推進交付金について

保険者機能強化推進交付金について、佐藤課長より説明。

〈質疑応答〉

(影山会長)

交付金としては、資料1の18ページに内示額が示されているが、この金額は、前年度と比べて、増えているのか減っているのか。

(佐藤課長)

令和元年度は、1,693万1,000円で、得点割合は70.2%であったが、令和2年度は、推進交付金1,901万4,000円と、新しく創設された支援交付金1,983万3,000円の合計で3,884万7,000円で、得点割合は61.4%となっている。

得点割合が下がっているが、評価指標が年度によって変わっているため、一概に前年度と比べて後退したというわけではない。

(影山会長)

点数も年度によって変わってくる。今年度は、前年度よりも結果としては、推進交付金のほうは増えている。新たに支援交付金、が1983万円増えた。レーダーチャートで、へこんでいる部分に関していろいろ説明があり、その辺を今後、改善していくというふうに我々は理解すればよろしいか。

(久保田課長補佐)

そのとおりである。課長の説明にあったとおり、令和元年度までは地域支援全体の取組に対して、保険者機能強化推進交付金が充てられていたが、今年から、交付金が2本立てになり、評価指標については、推進交付金として見る指標、どちらでも見る指標と、2つあり、19ページのグラフについては、推進交付金と、支援交付金の両方の得点を全国もしくは県と比較してグラフにしたというものになる。

(内館委員)

2年度の推進交付金が1,900万、昨年度は、1,690万ということで今年度が、200万ほど増えているが、達成率としては、元年度が70%で、2年度は61%で落ちているが、この金額は全国的

な平均値で比べると、61.4%で低下しても、花巻市としては、全国と比較して相対的によかったと考えればよいのか。

（佐藤課長補佐）

18ページの3のところに交付額の算定方法があるが、第1号被保険者の規模別に配分額が決まっていて、配分額に各市町村の得点状況に対して、当市がとれだけの割合で得点できているのかというものを掛けて算出するという形になっている。

（影山会長）

令和2年度の交付金の予算額は、前年度と比べて増えているのか。そうすると、例えば達成率が下がる。30年度と比べると今年は61.4%で、達成率は下がっているが、交付金の予算額が増えていれば、達成率が多少下がっても、交付金の額は増えるという可能性はあると思うが、その辺はどうか。

（佐藤課長補佐）

令和元年度は、推進交付金のほうしかなかったが、予算額は、200億円。令和2年度の推進交付金の予算と変わらない。

（影山会長）

そうすると、花巻市も達成率が落ちているが、全国的にほかも落ちているので、逆に順位は上がったと、そんなふうに見ればよいのか。

（佐藤補佐）

元年度の、全国平均が何点で花巻市が全国で第何位なのかというのが示されていないので比較が出来ないが、恐らく、そういった形になるかと思う。

（影山会長）

今後、幾つかの項目で、花巻市だけが落ちているわけではなく、全国自体も落ちている部分があるが、ぜひ、改善するようにお願いしたい。

⑤介護保険条例の改正について

介護保険条例の改正について、佐藤課長より説明。

〈質問等なし〉

⑥地域密着型事業所の整備状況

地域密着型事業所の整備状況について、佐藤課長より説明。

〈質疑応答〉

（狩野委員）

実際に老人ホームを運営している者として、新しい老人ホームができることは非常によいことだと思う。確かに、待機者も若干いらっしゃるの。

ただ、老人ホーム関係で仕事をしてくれる方々が今、全くいない。実際に、大谷会でも、グループホームが2棟あるが、1棟は今休んでいる。そういう状況で、あえてまたグループホームを新しくつくる必要があるのか疑問である。新しい地域密着型の特養でも、建物は出来たが、ベッドが稼働してない。待機者の方々には申し訳ないが、きちんとしたサービスが出来ていない。

むやみに施設をつくっても、空きベッドができるという状況であることを、市の皆さんにも考えていただきたい。

(佐藤課長)

今、狩野委員が言われたとおりだと思っている。働いていただける方がいなければ、整備することは難しいといったことも考えながら、今後、8期計画を策定させていただきたいと考えている。施設は建てないで、在宅のほうに力を入れるなどといった計画に持っていきたいと考えている。皆様の御意見を加味しながら計画のほうを策定し、それをまた皆様にお諮りして、御意見をいただきながら、つくっていききたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

(影山会長)

介護保険関係の事業所に関しては、感染症対策をきっちりやらなければならない、新たな設備投資が必要になり、厳しくなっていると感じる。

残念ながら、グループホーム2施設は応募がなかったということのようなので、今後、市のほうでもいろいろ検討されるとのことだが、よろしくお願いしたい。

⑦第8期介護保険事業計画の策定について

第8期介護保険事業計画の策定について、佐藤課長より説明。

〈質疑応答〉

(小田島委員)

時間も余りないのだが、当然、8期の計画に向けては、今までの7期までの計画を踏まえつつ、毎年制度が変わり法律も改正されてということで、その時々ニーズを取り入れながらの計画になると思う。国の指針がこうだからとか、あるいは、国の大綱がこうだからということは確かに大切だと思うが、やはり花巻の実情をよく分析いただき、あるいはよく聞き取り等も含めてしていただきながら、先ほどの7期の評価ではないが、実績に応じた身の丈にあった実現可能な目標を掲げるということも大切ではないかと思う。

需要と供給のバランスをとり、そしてさらには、質を担保するという意味で、やはり人材確保が大変である。人材という部分においては、施設だけでなく、居宅サービスにも言えることである。様々な事業を展開する計画があっても、人材難ということで、なかなかこたえられない現状も踏まえた計画にしていただければと思う。

(佐藤課長)

今回計画8期計画は、地域の事情を見据えた上で立てさせていただきたいと思っているので皆様からの御意見をいただければと思っている。

(朝倉委員)

ちょっと中身とは異なると思うが、高校生とか中学生が親の介護をしているというような報道を見たが、花巻市内でもそういう実態は、あるのか。

(久保田補佐)

花巻の実情としては、何件そういった件数があるかというのは把握していないが、地域ケア個別会議のほうに上がってきた事例として、祖父母に当たる人を孫が面倒を見ているという事例があった。本当は介護を担うであろう、父母に障害があったり、家族関係が悪かったりで、下の代にあたる高校生の孫が、会議に出席したという事例はあったようだ。

(朝倉委員)

もしそういう実態があるのであれば、いろいろな制度があるので、活用するようにしてもらえればと思った。

(久保田補佐)

地域包括支援センターは、そのような相談の総合的な窓口になっている。民生委員からの情報もそうだし、地域の方でそういった御家庭がある場合は、気軽に相談いただければ、対応できる支援やサービスがあるので、対応していきたい。

(内館委員)

前回かなわなかったが、ぜひとも第8期では、認定審査会の判定件数を減らすために、介護度が変わらない場合については、一次判定をそのまま、お認めいただくという方向で、お願いできればと思う。

もう1点、次期のいきいきプランの中に、もしよければ花巻市の人口ピラミッドを表記いただければ、大変助かる。

(影山会長)

総人口や65歳以上の人口だけでなく、若い世代あるいは現役の世代の数がどうなっているのかということも必要だと思うのでよろしくお願いいたします。

ほかに御質問が特になければ、時間を過ぎてしまったが、1番最後のスケジュールに沿って、次回は2月ごろに開かれる予定となっているので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、1から7の協議事項はこれで終了とする。

(5) 閉会(佐藤課長補佐)

これをもって、令和2年度第1回花巻市介護保険運営協議会を閉会する。